

在留邦人の皆様へ

在ルクセンブルク日本大使館
2008年6月20日

～ 旅行中の安全対策について～

夏のバカンスシーズンには、多くの方が旅行に出かけられることと思います。

今回、近隣諸国で発生した日本人が巻き込まれた事件や事故等の例を、近隣在外公館のホームページから抜粋しましたので、その内容をご紹介します。

これらの事例を参考に、皆様も「自分の身は自分で守る」という心構えを持ち、事件や事故に巻き込まれないように注意して下さい。

【ベルギー】

・ 停車中の電車内で、犯人グループの1人が隣に座り、故意にライターなどを残して席を立ち去ったので、それを知らせようと席を離れている際に、共犯者に荷物を持ち去られた。

・ 停車中の列車で、犯人グループの1人がプラットフォームから窓越しに何事か話しかけてきたので、それに気をとられている際に、共犯者に荷物を持ち去られた。

・ グランプラス周辺を友人と散歩中、気がついたら布地のカバンが切れ、パスポートと現金が盗まれていた。

・ 車を運転中、信号待ちをしていたところ、ロックしていない後部ドアを突然開けられ、後部座席に置いていたバックを持ち去られた。

・ ブリュッセル市内のホテル前で車を駐車場に入れようとした時、アラブ系の男に声をかけられ気をとられている際に、別の共犯者に開いていた助手席の窓から手揚げバックを持ち去られた。

【フランス】

・ ニセ警察官

マドレーヌ寺院付近を数人で歩行中、男性が地図を広げて道を尋ねて来たので対応していたところ、ニセ警察官が身分証明書らしきものを提示し、麻薬の取り締まりを行っているので財布の提示を求めてきたため、その指示どおり財布を手渡した。その後返還された財布の中身を確認したところ、紙幣が抜き取られていた。

・ 強盗

格安ホテルやユースホステルのある比較的治安の悪いとされている地域（12区のバスチーユ、10、11区のリパブリック界隈、19、20区の通行人の少ない路地等）で、若年旅行者が複数の犯人から暴行を受けて手荷物を強奪された。

・ スリ

旅行者がスリにあい、犯人を追いかけたところ、犯人に殴られた。

- ・ ひったくり

歩道を歩行中、オートバイに乗った二人組に追い越しざまにバッグを強奪された。また、少年少女グループが、物売りの振りや時間や場所を尋ねる振りをして取り囲み、それを払いのけている際に四方からバックやポケットに手を入れられ、金品を抜き取られた。

- ・ 日本人の犯罪被害の主な発生地域

主な犯罪被害は、市内路上、公共交通機関、美術館等の観光地そして空港の順で発生している。

- (1) 市内路上

オペラ座周辺、モンマルトル界限、シャンゼリゼ通り、ノボテルホテル(旧ホテル日航)周辺。

- (2) 公共交通機関

特に地下鉄1号線、北駅、東駅、リヨン駅で被害が多発している。また、シャルルドゴール空港と市内を結ぶRER線のB線では、旅行者を狙った置き引きや強盗事件が発生している。

- (3) 観光地、歓楽街

ルーブル美術館、ノートルダム寺院、クリニャンクール「のみの市」等の観光地において旅行者のスリ被害が多発している。

また、ピガールやサンドニ通り等の歓楽街は、地元住民も特に注意する犯罪多発地区で、悪質な客引きや暴力バーまがいの店が多い。

- (4) 空港

カートに乗せた荷物の置き引き被害が多い。

【ドイツ】 都市別犯罪状況

- ・ デュッセルドルフ

貴重品の入ったバックを椅子やカートの上、あるいは足下に置いた一瞬の隙に置き引きの被害にあう例が大半である。

- ・ ハンブルク

犯罪多発地域は、中央駅東側のザンクト・ゲオルグ地区や、港に隣接する歓楽街のザンクト・パウリ地区である。

- ・ フランクフルト

犯罪被害の多くは、空港、中央駅及びその周辺(特にカイザー通り)、ショッピングエリアで発生している。

- ・ ベルリン

空港やツォー駅等の各主要駅周辺、ウンターデンリンデンやクアフルステンダム(通称クーダム)などの繁華街を中心に、スリや置き引きの被害が発生している。

- ・ ミュンヘン

ミュンヘンのあるバイエルン州は、他の州と比較すると治安はよい方と言えるが、犯罪統計を見ると、犯罪の凶悪化、外国人犯罪の増加、麻薬関連の犯罪が増加している。中央駅周辺は各種犯罪が多発しており、日本人旅行者がスリ、置き引きの被害にあっている。